



2月号の主な記事

令和8年度市民税・府民税の申告受付……2面
【ジシン本講座】手話による防災講座……3面

第3期大阪市北区地域福祉計画……4面
あなたの戸籍、フリガナは大丈夫?……8面

第15回中崎町キャンドルナイト……8面
令和8年度の広告募集中!……8面



「ガーナを訪問 / 世界は近い」



天満中学校の万博国際交流プログラム



廃棄物で埋め尽くされ、
煙が漂うアグボグブロー地区



「クラウドスクール」の中学校では
そろばんを勉強していた

大阪・関西万博の参加国・地域と全国各地域の住民との交流を支援しようと進められた内閣官房の事業である「万博国際交流プログラム」。北区では、天満中学校が西アフリカのガーナ共和国との交流を、昨年から続けてきました。事前学習を経て、昨年11月には5人の生徒が7泊8日でガーナを訪れ、現地の生活を見聞きし、そこに暮らす子どもたちと触れ合いました。「世界は近い。各地で起きている問題を、身近なこととして捉えていきたい」と話します。

「勉強も遊びも本気」

昨年末、全校生徒を前に開いた帰国報告会。3年生の福井慶一さんは、訪問前には病気や治安への不安があったガーナが大好きになった理由を「勉強も遊びも、全員が本気」と紹介。訪問先の学校で歌やダンスの熱烈的な歓迎を受け、「日本人にないすばらしさを持っていると感じた。自分で見て体験して、初めてわかることがある」と報告しました。

ガーナでの行程は、事前学習で出合った生徒らの関心に沿って組み立てられました。首都アクラでは、野口英世記念館や奴隷貿易の拠点となった施設を見学。「電子機器の墓場」と呼ばれるアグボグブロー地区にも訪ねました。先進国から運び込まれ、現地で不法投棄された電子機器を燃やし、取り出したレアメタルなどを売って生計を立てる人々。有毒ガスや土壌汚染が健康をむしばんでいます。「大量消費の結果がここに押し付けられている。日本の物も入っている可能性がある。他人事じゃない」と3年生の崔煌一さん。現地では、日本企業がリサ



カカオ農園では
児童労働の課題を知った

大きな容器を
頭に載せて
水を運ぶ子どもたち



イクル事業や農業、EV事業に取り組んで環境改善を図るとともに雇用を生み出しており、人々の自立を支える支援の在り方も学びました。

スマホは身近な豊かさ

首都からバスで約4時間。ヴォルタ州で3つの学校を訪れ、練習を積んだガーナ国歌や日本の伝統芸能の紹介としてひよっとこ踊りを披露しました。学校によって環境や授業内容の差は大きく、日本のNPOが設立・運営する「クラウドスクール」では、強い雨が音を立てるトタン屋根の暑い教室で、中学生がそろばんの勉強をしていました。

2年生の長嶺はつみさんは、電気もない土壁の家に住む農村の人が盛んにスマホを使うのが気になり、「もつと他のことにお金を使えばいいの」と現地の日本人らに理由を尋ねました。「ガーナの人は電話で話すことが大好きで、スマホは人と人をつなぐ手段」「身近にある豊かさなんです」。報告会でそんな声を紹介し、「みなさんはどう思いますか」と問い掛けました。

ガーナに同行した吉田正成教諭は「今回の訪問は、こちらの要望を全てコーディネートしてもらって実現しました。生徒たちはそれが当たり前ではなく、自分たちの力でできたわけじゃないことを、身を持って感じたと思います。学校の取組でも、与えられたことをするだけでなく、何をするかを自分で考え、発信する人間になってもらえたら」と話します。